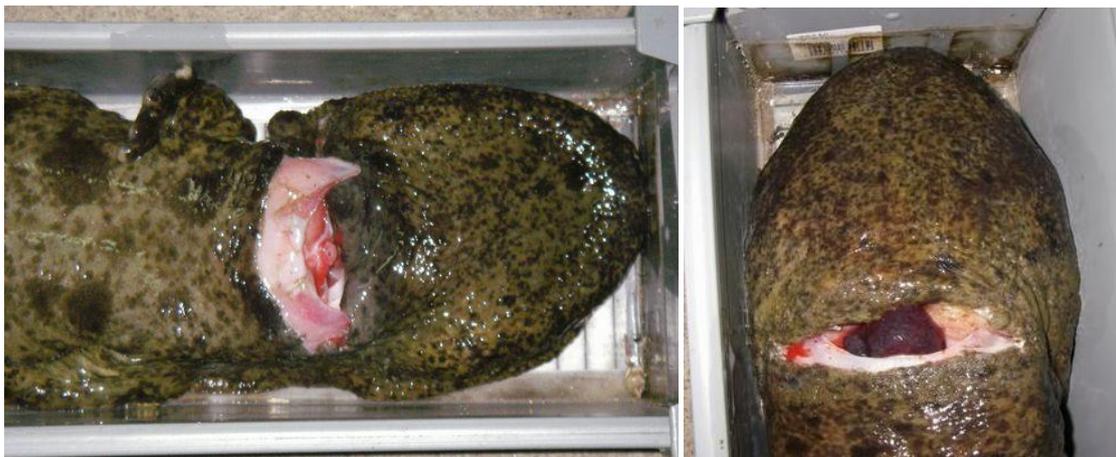




ハンザキの首切り死体

私が担当していた姫路市立水族館の水槽内で首を切られたハンザキの死体が見つかったのは、40年以上も前のことだ。F-10と名付けられた水槽は、観客が手を入れることが可能な水槽であった。あまりにも鋭くスパッと首が切られていたので、人間のいたずらによるものと考えられた。しかし、その後の生態調査を継続する中で河川において次々と首切り死体の発見が続いた。そして観客の手が届かない水槽でも首切り死体が出たことで、初めて仲間によるものであることが分かった。河川における死体発見は繁殖期の9月に集中している。死体はオスばかりであった。その現場を観察することはできなかったが、繁殖に関してオス同士のバトルが起こったことであることが推測できた。その後、バトル・シーンの目視と撮影にも成功した。



カモガワハンザキのメスの首切り死体

しかし、その後の調査で河川からの首切り死体の中にメスも含まれていることが分かってくると、なぜなのかという疑問が起こってくる。オス同士のバトル以外に何が起きているのだろうか？ カモガワ・ハンザキを収容しているプールで昨年の8月にメス個体の首切り死体が初めて発生した(当ニュース 80 参照)。性的な活性化が見られない飼育環境で初めてのことだったが、卵は熟していなかった。今月の15・16日に相次いでまたもやメスの首切り死体が出た。冷たいマイナス気温のもとで解剖したが、両者ともにメスであった。片方は卵が小さいまま輸卵管に、一方は昨年11月に捕獲された個体で熟卵には少し届かないものの大い卵とゴマ粒のような小卵が輸卵管に移動していたのだ。厳冬期の水温も3~5度のプールでの出来事である。なぜなんだろうかなと思うところです。



写真1 京都水族館からのハイブリッド受け入れ



写真2 カモガワハンザキ首切り死体の卵 1



写真3 カモガワハンザキ首切り死体の卵 2



写真4 アンコ淵への幼生放流



写真5 奥藤事務局長の除雪作業



写真6 新年会はスタッフの古民家落成記念で



写真7 新年会の様子



写真8 岡田副理事長、積雪の川で調査



写真9 アンコ淵の新しい主?



写真10 ゴミ出しの工夫



写真11 無人カメラにタヌキ



写真12 無人カメラにテン

## 農家民宿はじめます “まるつね”

事務局 黒田真澄

我が家には長い間使われず空き家となっている築 85 年の旧家がありました。傷みもひどくなり何とかしたいが元手が無いのでどうしたものかと知人に相談したところ、古民家改修のプロを紹介いただきました。外観は触らず中だけを再生する工事ができるとのことで、古い物を極力残し自分たちで出来る作業はやるという形での改修が決まりました。

さてまずは家の片付けからです。何十年もの間物置として使っていたので、いつか使うかもしれないと取っておいたガラクタが山のように詰まっていました。使えそうな物は知人に引き取ってもらい、どうにもならないゴミ類は何度も処理場へ運びました。そして着工の直前までかかり何とか家の中を空にすることが出来ました。

後は業者にお任せして床と天井を取り払い古い梁や柱が見えてくると、過去の改修で大切な梁が切り取られているなど問題続出です。その場で相談しながら決めていくのですが、アレも残したいコレも残したいと注文を出す私に大工さんは頭を悩ませながらも色々知恵を出してくれました。大きな梁を残して見せるためには天井をかなり上げて 2 階が狭くなってしまいましたが、ワンフロアの小屋裏が出来て隠れ家のようにいい空間になりました。新しくした梁や柱には自分で墨柿渋を塗り黒くして古い柱との違和感をなくしていきます。予算も無いので壁も下塗りまでは左官屋さんをお願いして、上塗りは自分たちで仕上げることにしました。この壁の上塗りは一度に仕上げず、農家民宿オープン後にワークショップとして色んな方に手伝ってもらって仕上げていけたらいいなと思っています。玄関から台所と裏の勝手口まで続く土間はどうしても残したい物の一つでした。黒川でもほとんどの家で見ることの無くなった土間ですが、昔から色んな人が土足のまま気軽に入ってきて話しをしたりゆっくりお茶を飲める団らんの空間がそこにはあると思うのです。

工事と同時進行で建具の調達にも走り回りました。知人に声をかけて昔の障子や板戸などをもらってきたり、リサイクルショップに何度も通い古い照明器具を探しました。そして大工さんをお願いしてサイズの合わない障子を切って作り直してもらい、格子戸の傷んでいる部分を切り取って壁にはめ込んでもらうなどの無理を言いましたが、快く引き受けてくださったお陰で、思い描いていた以上の出来映えで無事改修が終わりました。

その後、県農林、保健所と消防の検査を済ませ、後は開業に向けて必要な備品を揃えていきます。あちこちからいただいたお布団や座布団を運び入れて何とかお宿らしくなった頃、ハンザキ研究所の新年会をここでやってはとのお話がありました。まだ準備は整っていませんが改修のお披露目と宿泊のテストを兼ねて宴会を開くことにしました。1 丈の大きさの掘りごたつにテーブルを一つ付けて 13 名で 3 つの鍋をかこみました。天井が高く寒いのでストーブも 4 つ用意しての宴会です。泊まれる安心感からか皆さんお酒が進みおしゃべりも途切れることなく、気がつけば窓の外が明るくなっていました。朝には -5℃まで下がっていましたが、途中でお休みになった皆さんもコタツや湯たんぽで暖かく眠れたようで一安心でした。古民家の雰囲気もいいとの感想をいただき、4 月 2 日のオープンに向けて準備はまだ続きます。ちなみに岡田副理事長は庭続きの前の川に調査に入り、巢穴にひそむ 2 匹のオオサンショウウオを確認したそうです。

## アンコ淵の主は？・・・

昨年(2012)の10月13日に、黒主が守っているアンコ淵の巣穴から約300卵をフッキングした。その2日後に黒主が巣穴を出入りしているのが確認できている。しかし、その後ハンザキの姿が観察できないまま今月の28日の夜間に、黒主とは斑紋の異なる個体が巣穴に入るところをモニターで確認した。そして30日の午前8時に穴のそばに出ている個体を確保した。この個体はNo.1078で1年4か月振りに6回目の測定、9年1か月間の追跡個体であった。2008年8月にアンコ淵で確認、次いで2011年9月にと繁殖期に何度かやって来ているハンザキで、オスであることはこれまでに3回確認済みであった。(写真-9)

一方の黒主であるが、どこへ行ったのか支流の長野川の古巣へ戻っているのか4か月間も行方不明である。一昨年の10月17日に600卵を引き出した後も黒主は引き続きアンコ淵で観察されていたのだ。ただ、少し気になるのは昨年の8月19日に黒主を確保して測定した時に、総排出腔周囲の隆起が見られなかったのに、1か月後に産卵行動が行われたと推測できた状況であった(孵化も10月23日頃から始まったので)ことだ。性的に活性化が見られていなかったように思われるのだ。それでもデン・マスターの役割を果たしたのだろうか？ それとも、300卵(孵化幼生の数もほぼ同数であった)が全てで卵が無くなったのでどこかへ消えてしまったということだろうか？ 総数300卵と言うと最少産卵数になるのだが、この繁殖期にはアンコ淵に集まって来たメスを確保していないので何とも結論付けることはできない状況である。

.....

## ハンザキ研見学ツアー

昨年5月には、元文化庁記念物課動物担当の調査官であった花井正光さん(現在沖縄在住)が旗振り役で6名の方々のツアーが実現した。ハンザキは沖縄の川には生息していないので両生類に関心のあるメンバーは大満足であったようだ。やはり一度は自然の川で野生の姿を見てみたいということだろう。同様に、関東東北にも生息していないので、ハンザキ研の夜間観察会に東京からの参加もあった。

関東方面の人にとっては姫路城(平成の大修理中の様子が見学できる)や天空の山城と呼ばれている竹田城跡(大フィーバー中の朝来市の観光スポット)、優雅に飛翔する姿を見ることができるコウノトリ郷公園、志賀直哉によって全国区になった城崎温泉などなどハンザキ研の見学のオプションでいかがでしょうか？ 生野の街にも鉱山博物館や明治維新の平野國臣の義拳(今年150年目になるそうです)などの近代化への歴史の足跡、そして何よりのお勧めは郷宿であった井筒屋内のハンザキ・グッズ専門店？の銀谷(かなや)工房です。ハンザキの抱き枕やクッキー、ケータイ入れ、財布と小銭入れ、ストラップ、キーホルダーなどなど色々あります。最近では500円硬貨が何枚か収納できるマカロン(お菓子の名前からのネーミング)が可愛らしくて好評だ。私は心筋梗塞用薬を入れて常時ケータイしています。我がスタッフの農家民宿まるつね(まるごと一軒貸し切り)の庭先からハンザキが見学できるなんて最高ですよ。

## ハンザキ研における平成 24 年の十大ニュース

- 1 鳥取県から全長 90~125 ㍉のハンザキ 3 個体と全長 125 ㍉の死体収容 (2 月)
- 2 旧・黒川小中学校の新たな賃貸契約 (4 月)
- 3 沖縄よりトコトン・ハンザキ・ツアー6 名見学に (5 月)
- 4 ポンプ・ピットにサンド・ポンプ設置 (7 月)
- 5 但馬文教府にて青少年のための科学の祭典に出展 (8 月)
- 6 日本オオサンショウウオの会、山口県岩国市錦町大会 (9 月)
- 7 水中カメラで卵を守る黒主の撮影に成功 (9 月)
- 8 大阪大学における日本動物学会で公開講演 (9 月)
- 9 アンコ淵の波消し・ゴミ除け二重リング完成 (10 月)
- 10 但馬空港において環境フェスティバルへ出展 (11 月)

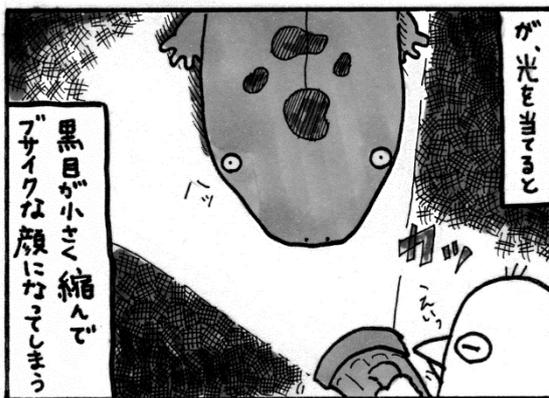
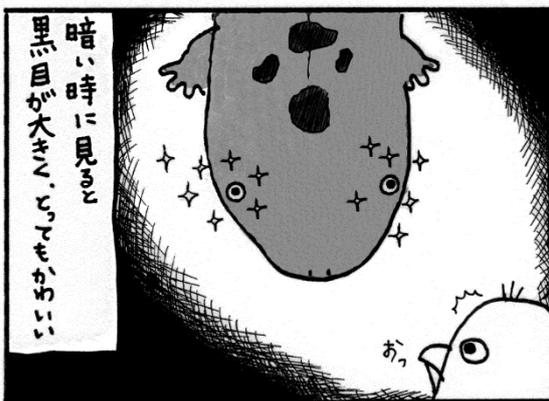
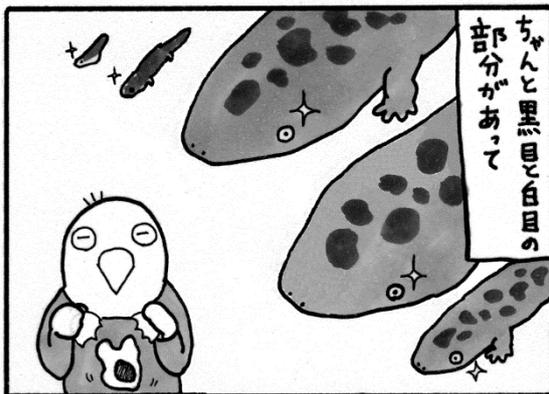
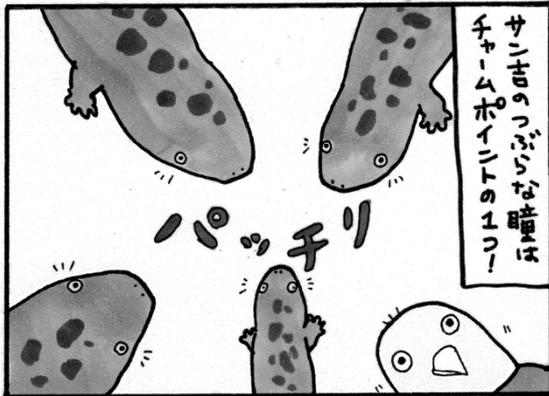
この 1 年にもいろいろなことがあった。十大ニュースとして選び出す候補としては 35 項目にも及ぶ出来事があったのです。1 から順番に重要だということではなく、順番は付けがたいところである。どれも横並びで選に漏れた項目もほぼ同じレベルなのだ。そして選者の一人よがりでもある。9 のアンコ淵の二重リングは自画自賛の傑作だと思っている (当ニュース 82 など参照)。なにしろサクラの花びらの白いレースや秋の落葉のカーテンには閉口する。ものすごい量が集まってきて、アンコ淵の観察ができなくなるのです。上流側に角材を浮かべて旨く行ったかなと思ったら岸にぶち当たった浮遊物が反転して下流側から押し寄せてきたのだ。考えた挙句が全方向のリングによる防除だったが、少し流れが強いと潜って入り込んで来る。そしてこれをクリアしたのが二重リングだ。外側のリングを潜ってきても流れが弱まるので内側のリングでストップできたのだ。見学者があれば何ですか？と必ず質問してくる。ここぞとばかり自慢話になってしまう。

4 の砂出しポンプは待ったなしの堆砂対策が迫られた結果だ。災害が起こると人間のための活動が優先される。つまり建設会社の手が回らなくなり、ハンザキのための砂出し (ポンプ・ピットに砂が溜まって揚水できなくなる) 作業は後回しにされるので、自前でできるようにしなくてはならない。

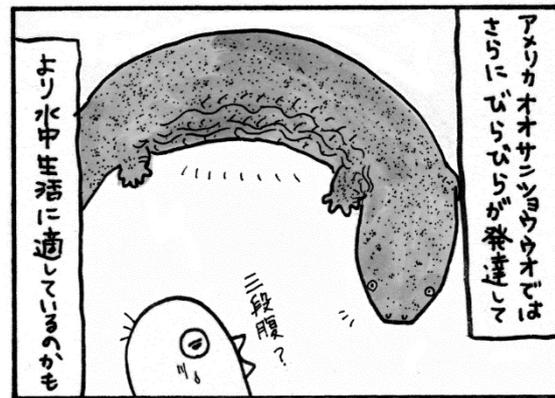
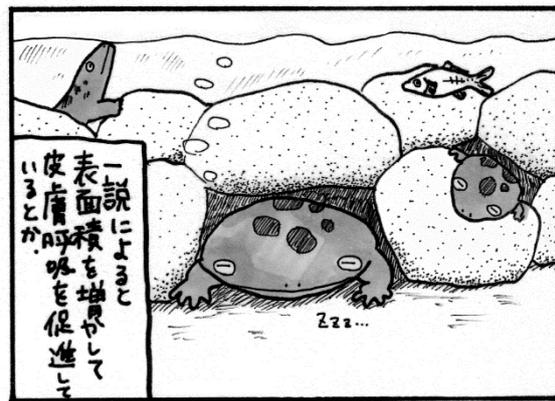
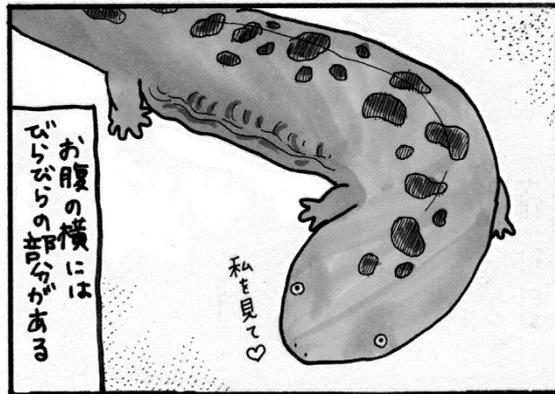
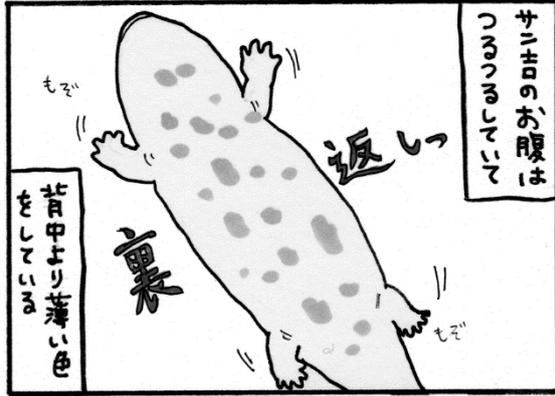
5 と 10 は共にハイブリッドの迫力を多くの方に示すことができたと思う。それによってハンザキへの理解が進んだことだろう。6 のオオサンショウウオの会は岩国市を挙げての盛大な大会になった。無論、盛大に実施することが目的ではないが、地元の住民がそれだけ関心を持ってくれるということはいずれのことである。今年は第 10 回大会が京都で実施される。ハイブリッドのカモガワ・ハンザキのサンクチュアリーにおける開催だ。オオサンショウウオの会もほぼ主生息地を一周することができたが、その他の開催地を模索していかなければならない。生息地周辺で、地元の方々がハンザキにかかわりを持って活動している場所があれば、立候補してほしいと思う。奈良・滋賀・福井・大阪・四国など・・・



その21 目



その22 お腹



サン吉: オオサンショウウオ川にすむ王様である



トリ子: トリ型宇宙人地球を征服するべく劣吉の生命カをせらっている

ハンザキ研日誌

2013年1月

- 元日 6年続いて山の中で越年
- 4日 京都水族館からのカモガワ・ハンザキ 17 個体収容、総計 196 個体収容  
(内転送 3、死亡 20 で現在 173 個体収容中) : 写真 1
- 6日 静かな正月で日中、構内をテンが散歩していた
- 10日 昨年生まれのハンザキ幼生 220 個体原状復帰 : 写真 4
- 14日 重たい雪が積もってアンコ淵の照明用電線 1 本切れる
- 15日 カモガワ・ハンザキのメス首切り死体 (2 個体目) : 表紙写真左
- 16日 同上 (3 個体目) : 表紙写真右
- 17日 円山川水系自然再生推進委員会技術部会開催、円山川防災センターにて
- 19日 奥藤事務局長、小型除雪機で今シーズン初の雪かきを実施 : 写真 5
- 23日 大阪府安威川ダム建設所より来所、3名
- 26日 ・事務局会議、10名  
・NPOの新年会を改修したスタッフの古民家で実施、13名参加  
・岡田副理事長、調査で丁字谷横の主を捕獲、No.415 で8年1か月ぶりの確認 25  
年4月間追跡中
- 29日 ・岡田副理事長、支流長野川の主の調査 : 写真 8  
・アンコ淵の照明電線復旧
- 30日 アンコ淵で、黒主ではない個体を測定、No.1078 で1年4月ぶり9年1か月間の追  
跡中、黒主はいずこへ? : 写真 9

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

どうやらなんとかニュースの発行が追いついたようだ。1月号は2月中に刊行できればいいのだが、今日は2月20日なので印刷は来月になりそうだ。昨日は豊岡市で円山川の自然再生推進委員会があった。時間の合間を見つつ地元の魚屋を物色するのが楽しみにしている。日本海産の変わった魚が出ていることがあって、的鯛(馬頭鯛)もトライしたが旨かった。今回はキツネ1500円というのがあった。無論哺乳類のキツネではない。全長1m程の大物のキツネダラで、会議が終わる夕方では売れてしまっているかもしれないので確保したが、5kgほどの重さを一日かついで回って閉口した。写真は来月号に載せますので、どんな姿なのか楽しみにしてください。そんじょそこらの魚屋さんには絶対に見られない迫力のある魚です。食ってみるまでが水産学と教え込まれているので、とにかく挑戦するしかない。夜中にハンザキ研に帰りつき、台所の流しに出して撮影してからいくつかに分解してとりあえず冷凍しました。旨かったかどうかとも後日談に期待下さい。耳石とタイの“たい”も何とかゲットしたいと考えています。